

1.0版 2016年12月01日

管理者マニュアル

FOR SHAREPOINT 2016

CSV エクスポート

[SP 改]

目次

稼働環境	2
インストール	
アップグレード	4
アンインストール	6
スケジュール実行について	7
ログ出力設定	8
	•

稼働環境

『[SP 改]CSV エクスポート』は、以下の環境で動作します。

Microsoft SharePoint Server 2016

インストール

以下の手順でインストールします。

1. ソリューションの追加

PowerShellのAdd-SPSolutionコマンドを使ってソリューション ファイル「SPXCSVExport.wsp」をソリューション ストアに追加します。

例)

Add-SPSolution -LiteralPath c:¥SPXCSVExport.wsp

ソリューション ファイルの詳しいインストール方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Add-SPSolution http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607552.aspx

2. ソリューションの展開

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [フ ァーム ソリューションの管理] ページを開き、上記で追加した「SPXCSVExport.wsp」を Web アプリケー ションに展開します。 ※本機能は「ファーム ソリューション」です。サイトコレクションレベルで展開した場合はサポートされません。

- 「CSV エクスポート機能インフラストラクチャ」機能の有効化(Web アプリケーションの機能) [サーバーの全体管理]サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理]から[Web アプリケーション]セクションの[Web アプリケーションの管理]ページを開き、機能を有効にするWeb アプリケーションを選択し、『[SP 改]CSV エクスポート機能インフラストラクチャ』を「アクティブ」にします。 ※WSS のタイマジョブに、スケジュール実行用のジョブ『[SP 改]CSV エクスポート(※Web アプリケーション URL)』が登録されます。詳細は、後述「スケジュール実行について」を参照して下さい。
- 4. 「CSV エクスポート」の有効化(サイトコレクションの機能)
 本機能を利用するサイトの、トップレベルサイトの[サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能]ページを開き、『[SP 改]CSV エクスポート』を「アクティブ」にします。
 ※コンテンツデータベースに、スケジュール情報格納用テーブル『spx_CSVExportItems_(※バージョン番号)』が作成されます。

アップグレード

既に本機能の以前のバージョンがインストール済みの環境に、新しいバージョンを適用する場合には、以下の手順でアップグレードします。

1. ソリューションのアップグレード PowerShell の Update-SPSolution コマンドを使ってソリューション「SPXCSVExport.wsp」を更新(ジョブ を投入)します。

例)

Update-SPSolution -Identity SPXCSVExport.wsp -LiteralPath c:¥ SPXCSVExport.wsp -GACDeployment

ソリューションの詳しいアップグレード方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Update-SPSolution http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607724.aspx

2. PowerShell の Start-SPAdminJob コマンドを使って投入済みのジョブを実行します。

例)

Start-SPAdminJob

注意:ジョブが自動実行設定されている場合、このコマンドはエラーとなります。自動的にジョブが実行され るため、エラーは無視して問題ありません。

ジョブの詳しい実行方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Start-SPAdminJob

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607833.aspx

※アップグレード時の注意点

アップグレードの操作中に、自動的にIISが再起動されます。自動的に再起動されない場合には、IISマネ ージャや IISReset コマンド等で IIS の再起動を行ってください。

IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc770764%28WS.10%29.aspx 3. ソリューションの再展開

PowerShell の Install-SPSolution コマンド使ってソリューションを再展開します。 コマンド実行後、手順2のStart-SPAdminJobを実行してください。 例) Install-SPSolution -Identity SPXCSVExport.wsp -WebApplication http://SharePointServer/ -GACDeployment -CompatibilityLevel All -Force 注意:ソリューションインストール中に上記コマンドを実行すると実行中エラーが発生します。時間を置き、 処理が終了した後再度実行してください。

ソリューション ファイルの詳しい展開方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Install-SPSolution

http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607534.aspx

アンインストール

以下の手順でアンインストールします。

- 機能の無効化 (サイトコレクションの機能)
 本機能を利用しているすべてのサイトの、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレク ションの機能] ページを開き、『[SP 改]CSV エクスポート』を「非アクティブ」にします。
- CSV エクスポート機能インフラストラクチャの無効化(Web アプリケーションの機能)
 [サーバーの全体管理]サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理]から[Web アプリケーション]セクションの[Web アプリケーションの管理]ページを開き、機能を無効にする Web アプリケーションを選択して、リボンメニューの[機能の管理]をクリックします。表示される[Web アプリケーション機能の
 管理]ダイアログボックスで、『[SP 改]CSV エクスポート機能インフラストラクチャ』を「非アクティブ」にします。
 ※WSS のタイマジョブから、スケジュール実行用のジョブが削除されます。
 ※スケジュール情報を記録している SQLServer 上のテーブルは自動的に削除されません。
- 3. ソリューションの取り消し

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [フ ァームソリューションの管理] ページを開き、「spxcsvexport.wsp」を すべての Web アプリケーションから 取り消します。

※アンインストール時の注意点

必ず『[SP 改]CSV エクスポート』・『[SP 改]CSV エクスポート機能インフラストラクチャ』を"非アクティブ"にしてから、展開の取り消しを行ってください。

4. ソリューションの削除

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [フ ァームソリューションの管理] ページを開き、「spxcsvexport.wsp」を削除します。

スケジュール実行について

「CSV エクスポート機能インフラストラクチャ」機能を有効にすると、WSS のタイマージョブに、対象 Web アプリケーションのスケジュール実行用ジョブが登録されます。

- シ ジョブタイトル : [SP 改]CSV エクスポート(※Web アプリケーション URL)
- ▶ 実行スケジュール : 分単位 間隔 15 分

リストの設定画面から登録されたスケジュール情報は、コンテンツデータベースのスケジュール情報格納用テーブ ルで管理され、この情報を元にジョブはスケジュール実行を行います。

「[SP 改]CSV エクスポート(****)」のジョブは、15 分間隔で実行され、コンテンツデータベースのスケジュール情報 格納用テーブルを参照します。

ジョブ実行時間内でスケジュール実行の対象データがあった場合、CSV ファイルを生成し、アップロード処理を行います。

例) 2015 年 9 月 15 日(火) 12:18」 にショフか実行る

時間単位	00分	対象外
時間単位	15 分	対象
時間単位	30 分	対象外
時間単位	45 分	対象外
日単位	11:15	対象外
日単位	12:15	対象
週単位	月曜日 12:15	対象外
週単位	火曜日 12:15	対象
月単位	14日 12:15	対象外
月単位	15日 12:15	対象

■スケジュール情報

※ サイトコレクションを削除する際、スケジュール設定が有効になっているリストが含まれている場合は、「機能の無効化(サイトコレクションの機能)」を行ってから、削除を行って下さい。 「機能の無効化(サイトコレクションの機能)」を行うと、コンテンツデータベースから該当するスケジュール情報が削除されます。

ログ出力設定

不具合調査等で、ログを出力したい場合は以下の手順でトレースログ出力の設定を行ってください。 ※ログの出力は、他の SharePoint 機能やサービスと同じ様に「診断ログ」として出力されます。そのため、十分 に運用計画を行ってから設定してください。

※CSV エクスポートのトレースログは、[Area]属性 が「SPXCSVExport」で出力されます。

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの [監視] から [レポート] セクションの [診断ログの構成を表示します。

2. [記録されるイベントの設定]の設定を行います。

▷ [カテゴリの選択]に表示されているツリービューで、[SharePoint Foundation] ノードを展開します。

記録されるイベントの設定

これらの設定を使用して、 Windows イベント ログおよび トレース ログに記録されるイベン トの重要度を制御します。重要 度を下げると、記録されるイベン トの数が増加します。

1 つのカテゴリの設定を変更する ことも、すべてのカテゴリの設定を 変更することもできます。すべて のカテゴリの変更内容が失われま す。

カテゴリの選択 ラーすべてのカテゴリ ・ 」すべてのカテゴリ ・ 」 Access Services ・ 」 Access Services 2010 ・ 」 Business Connectivity Services ・ 」 Document Conversions ・ 」 Document Management Server ・ 』 eApproval ・ 」 Education ・ 」 Excel Services Application ・ 』 InfoPath Forms Services

- Office Automation Services
- 🗉 🗌 Office Services Infrastructure
- PerformancePoint Service
- 🗉 🗌 Search
- ∃ □ Secure Store Service
- SharePoint Express
- SharePoint Foundation
- SharePoint Foundation Search

展開された子ノードから [Web パーツ] のチェックボックスにチェックを入れます。 \triangleright

SharePoint Foundation		
□通知	情報	中
□ アプリ認証	情報	中
□アプリの展開	情報	中
□ アプリ ホスティングのクォータ管理	情報	中
	情報	中
□ アプリ Marketplace	情報	中
□ アップグレード	情報	中
□ 利用状況インフラストラクチャ	情報	中
□ ユーザー設定のプロバイダー	情報	中
□ Web コントロール	情報	中
□ Web パーツ	情報	中
WOPI	情報	中
□ ワークフロー サービス	情報	中

▶ [トレースログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] で、「高」を選択します。

イベントログの記録対象となる重要度の最も低いイベント
\checkmark
トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント
高 🖌

3. [トレースログ] で、トレースログが保存される場所、保存するログファイル数、1 つのログファイルを使用する 時間を設定することができます。

トレ-	-7	ログ
-----	----	----

パス トレースを有効にすると、トレース ログを特定の場所に保存するこ とができます。注意:ファームのす べてのサーバー上に存在する場 所を指定する必要があります。 %CommonProgramFiles%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥15¥LOGS¥ 例: %CommonProgramFiles%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥15¥LOGS ログ ファイルの保存日数 14 他に、ログファイルの最長保存 日数を設定したり、ログに使用す るディスク領域の最大容量を制 限することができます。トレース ログの使用に関する詳細 トレース ログのディスク領域の使用を制限する □ トレース ログのディスク領域の使用を制限する トレース ログの保存容量の最大値 (GB) 1000

4. [OK] ボタンをクリックし、設定を完了します。